

国

語



<b>国語一 1</b> (国語総合) 俳句を作ろう . . . . .	1
俳句の推敲、創作をする事例	
<b>国語一 2</b> (現代文B) 根拠に基づいて人物の心情をとらえよう . . . . .	7
風景描写の創作を通して小説の読みを深める事例	
<b>国語一 3</b> (現代文B) 自分の考えを効果的に説明するために 必要な資料を作成しよう . . . . .	13
目的に応じて資料を作成し、自分の考えを表現する事例	
<b>国語一 4</b> (古典B) 文章中の人物描写から、作者の作品に込めた 考えを読み取ろう . . . . .	19
作者の意図の考察を通して、深い読みとりをする事例	
<b>国語一 5</b> (古典B) 登場人物の心情を掘り下げて考えよう . . . . .	25
古典(古文)を読んで登場人物の心情を深く考える事例	
<b>国語一 6</b> (古典B) 複数の人物の視点から、作品内で起こった 出来事の真相を解明しよう . . . . .	31
古典作品を、複数の人物の視点から読む事例	

【学習活動の概要】

1 単元名 俳句を作ろう		
2 単元目標		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・情景や心情の描写などを工夫し、俳句を創作しようとする。 (関心・意欲・態度)</li> <li>・情景や心情の描写などを工夫し、俳句を創作する。 (書く能力)</li> <li>・俳句のきまり、歴史的な事項について理解する。 (知識・理解)</li> </ul>		
3 単元の評価規準		
関心・意欲・態度	書く能力	知識・理解
情景や心情の描写などを工夫し、俳句を創作しようとしている。	情景や心情の描写などを工夫し、俳句を創作している。	俳句のきまり、歴史的な事項について理解している。
4 単元の概要		
<p>高校生が制作した俳句（新聞等から引用）を、さらによい作品となるようにグループで話し合っ て推敲する。その後、推敲の際に気付いたことや学んだことを生かして各自が俳句を創作する。</p> <p>教材 高校生制作の俳句（新聞等から引用）三句                  教具 ウェビングマップ、タイムタイマー、ホワイトボード、マーカー、付箋</p>		
5 単元の指導計画		
次	学習活動	深い学びに関する指導上の留意点
第1次	〈ウェビングマップの体験〉 ・各自が好きな語句を一つ決め、ウェビングマップを用いてその語句からイメージをふくらませていく。3分が経過したらグループ内で交換する。	・一人で考えるよりも複数人で考えたほうがイメージが広がるということを体験させる。
第2次	〈話し合いによる俳句の推敲〉 ・高校生が制作した俳句（新聞等から引用、教師が提示）三句の中から一句選ぶ。その句に用いられている語句について、ウェビングマップでイメージをふくらませ、その俳句のテーマを捉える。 ・捉えたテーマを踏まえて、「取り合わせ」の技法を用いて推敲をし、発表する。	・「取り合わせ」については、意外な二物の組み合わせが奥深さを生むということに気付かせたい。 ・ホワイトボードを用いて発表する。全グループが発表したら、それぞれのグループの句について、良かった点と疑問点とを各自が付箋に書き出し、ホワイトボードに貼る。
第3次	〈俳句の創作〉 ・ホワイトボードの付箋を見て、よりよい俳句にするためにはどうすればよいかを考え、各自の創作に生かす。	・付箋を見ることで自分たちのグループでは考え付かなかったことに気付かせたい。

## 【解説】

### 【指導事例と学習指導要領の関連】

本事例の指導事項は次のとおりである。

エ 優れた表現に接してその条件を考えたり、書いた文章について自己評価や相互評価を行ったりして、自分の表現に役立てるとともに、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにすること。  
「国語総合」内容「B書くこと」(1)

この指導事項を指導するのにふさわしいと考えた言語活動は次のとおりである。

ア 情景や心情の描写を取り入れて、詩歌をつくったり随筆などを書いたりすること。  
「国語総合」内容「B書くこと」(2)

### 【深い学びの実現に向けた工夫】

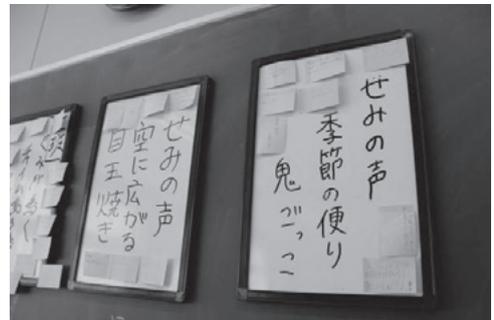
#### ○推敲から創作へ

本事例では、まず高校生が制作した俳句（新聞等から引用）を、話し合いによって推敲させた。その際の手立てとして、「取り合わせ」の技法を用いることとした。「取り合わせ」とは、一句の中に、二つの事物（主に、季語と別のモノ・コト）を並べることで、両者に相乗効果を発揮させて、読者に驚きや感動を与えるものである。ただし、本事例では生徒が考えやすいように簡易的に、上五に「季語」、中七に「季語から連想するもの・感じたこと」、下五に「季語からジャンプし、取り合わせる語句」、と設定した。話し合いの活性化や深まりを図るためには、生徒に一任して推敲させるのではなく、何らかの推敲の筋道や観点を示す必要があると考える。

次に、推敲したものを発表し、グループ同士で相互評価し、そこで気付いたこと・学んだことをもとに個人で俳句を創作した。教室全体で学び合ったことが生かされたため、作品の良し悪しはさておき、創作意図がしっかりしている作品が多かったように感じる。

#### ○思考ツール、教具の活用

「取り合わせ」を用いて推敲する際に、ウェビングマップを活用した。句に奥深さを出すため、意外な語だが実は季語と関係している語を下五に置きたい。その語を考える際に有効なのがウェビングマップである。また、推敲作品の発表の際にはホワイトボードを利用した。発表後にはホワイトボードを黒板に貼り、それぞれのグループの作品について「良かった点」「疑問点」を付箋に書き出して貼った。



このような思考ツール、教具は思考を可視化したり思考の伝達・共有を可能にしたりするので、主体的・対話的な深い学びを実現させる際には非常に有効である。

#### ○対話による気付き、そして活用へ

本事例では、①グループ内の対話による気付き、②各グループの発表による気付き、③他のグループから寄せられた付箋による気付き、以上3段階の気付きの場面を設定した。このような複数回の気付きによって自分の考え方や感じ方を深め、そしてそれを活用して各自の俳句の創作に新たに入っていけるよう単元を計画した。

1時間の授業においてできる活動には限りがある。したがって、1時間で「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」の三つの視点を満たそうとするのではなく、単元全体の中で効果的に三つの視点を満たすように計画する必要があると考える。



◆「取り合わせ」とは？

季節を表す季物と、それとほとんど関連性のない物や事象を組み合わせることです。この意外な取り合わせが俳句のおもしろさとなります。誰でも関連性が分かる常識的な二物を組み合わせても平面的で面白くないということです。

例1 春の雲ゆつくり動かない気持ち

春の雲ゆつくり動く時計針

例2 ひまわりや太陽いっぱい並んでる

ひまわりや太陽いっぱいオムライス

◆考え方

- (5) 季語
- (7) 連想するもの、感じたこと
- (5) ジャンプ

例1 (5) 春の雲 ……季語

(7) ゆつくり動く……季語から連想するもの、感じたこと

(5) 時計針 ……ジャンプ！「ゆつくり動くものといえば、時計の針だ！」

例2 (5) ひまわりや ……季語

(7) 太陽いっぱい……季語から連想するもの、感じたこと

(5) オムライス ……ジャンプ！「太陽のような輝き、そうだオムライスだ！」

天上と虹がかかるといふ

【俳句のテーマ】

夢は無限大

【着眼点メモ】

①元の俳句のどのような点がよくないか？

天上と虹の橋がかかっている。

全部右回り

②どのような効果をねらって、どのように直すか？

七回校生と夢は無限大

空にはかかるといふ夢は無限大

と高々かかるといふ夢は無限大でかかるといふ夢は



直した俳句

虹の橋 高々かかるといふ 七回校生

【発表聞き取り用メモ】

☆発表を聞いて良い点、疑問点をメモしましょう。

1班

2班

3班

4班

5班

【よりよい俳句を目指して】

番号

氏名

よりよい俳句にするためには、

☆「どのように心情をあらわせばよいか」

☆「どのように『ジャンプ』すればよいか」

☆「俳句の言葉についてどのような点に気をつければよいか」

右の☆について「ふせん」をもとに話し合いました！

☆どのように心情をあらわせばよいか

言葉を使え

ほかの特長を

と

イメージさせやすい言葉を選ぼう

ロニユアス約で相心像力をふくらませる

☆どのように「ジャンプ」すればよいか

対照的な言葉を使う

以外な言葉も連想させる

と連想しにくそうな言葉を選ばない

両方をイメージさせる

☆俳句の言葉についてどのような点に気をつければよいか

例え ひゆ子使っても面白い

水子語によっても遠く言葉が響く

句の中に対照的な言葉を使くと面白い

意図によって使う漢字を変えろ

直接的な言葉を用いる連想させる



【学習活動の概要】

<p>1 単元名 根拠に基づいて人物の心情をとらえよう</p>											
<p>2 単元目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>文章を読んで、書き手の意図や、人物、情景、心情の描写などを的確にとらえ、表現を味わおうとする。 (関心・意欲・態度)</li> <li>文章を読んで、書き手の意図や、人物、情景、描写などを的確にとらえ、表現を味わう。 (読む能力)</li> <li>風景描写の役割を理解する。 (知識・理解)</li> </ul>											
<p>3 単元の評価規準</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>関心・意欲・態度</th> <th>読む能力</th> <th>知識・理解</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>文章を読んで、書き手の意図や、人物、情景、心情の描写などを的確にとらえ、表現を味わおうとしている。</td> <td>文章を読んで、書き手の意図や、人物、情景、描写などを的確にとらえ、表現を味わっている。</td> <td>風景描写の役割を理解している。</td> </tr> </tbody> </table>			関心・意欲・態度	読む能力	知識・理解	文章を読んで、書き手の意図や、人物、情景、心情の描写などを的確にとらえ、表現を味わおうとしている。	文章を読んで、書き手の意図や、人物、情景、描写などを的確にとらえ、表現を味わっている。	風景描写の役割を理解している。			
関心・意欲・態度	読む能力	知識・理解									
文章を読んで、書き手の意図や、人物、情景、心情の描写などを的確にとらえ、表現を味わおうとしている。	文章を読んで、書き手の意図や、人物、情景、描写などを的確にとらえ、表現を味わっている。	風景描写の役割を理解している。									
<p>4 単元の概要</p> <p>風景描写の創作を通して、「人物の心情をどう読み取ったか」および「その根拠」を話し合い、自分の考えを深める。</p> <p>教材 『セメント樽の中の手紙』 葉山嘉樹</p> <p>教具 ワークシート、ホワイトボード、付箋</p>											
<p>5 単元の指導計画</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>次</th> <th>学習活動</th> <th>深い学びに関する指導上の留意点</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第1次</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>本単元では、小説の書き手の意図や人物の心情を根拠に基づいて読み味わう。</li> <li>小説を読んで、内容をとらえる。</li> <li>風景描写の効果について考える。</li> </ul> </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>文章の読みが恣意的なものにならないように、表現に即して読み味わうことを意識させる。</li> <li>当時の時代背景と今とを比較しながら読む。</li> <li>小説における風景描写が、人物の状況や心情を理解する手がかりであることを認識させる。</li> </ul> </td> </tr> <tr> <td>第2次</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>最後の場面〔与三の心情〕をどのように読み取ったかを表現に即して考える。(個人)</li> <li>相似した考えのグループをつくり、〔与三の心情〕を反映した風景描写を考える。(グループ→発表)</li> <li>話し合いや発表を通して、自分の読みを振り返る。(個人)</li> </ul> </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>読み取りの根拠や風景描写の創作など、生徒が見通しをもって取り組めるようにワークシートを作成する。</li> <li>風景描写を考える手だてを与える。(例：季節や時間帯など本文に即して考えさせる。)</li> <li>読み取った内容と風景描写の関連性がわかるようにホワイトボードに記入させる。発表では根拠を明確にさせる。</li> <li>他グループの発表から、自分の読みとの相違点に気づかせ、なぜそのような違いが生じるのか考えさせたい。</li> </ul> </td> </tr> </tbody> </table>			次	学習活動	深い学びに関する指導上の留意点	第1次	<ul style="list-style-type: none"> <li>本単元では、小説の書き手の意図や人物の心情を根拠に基づいて読み味わう。</li> <li>小説を読んで、内容をとらえる。</li> <li>風景描写の効果について考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>文章の読みが恣意的なものにならないように、表現に即して読み味わうことを意識させる。</li> <li>当時の時代背景と今とを比較しながら読む。</li> <li>小説における風景描写が、人物の状況や心情を理解する手がかりであることを認識させる。</li> </ul>	第2次	<ul style="list-style-type: none"> <li>最後の場面〔与三の心情〕をどのように読み取ったかを表現に即して考える。(個人)</li> <li>相似した考えのグループをつくり、〔与三の心情〕を反映した風景描写を考える。(グループ→発表)</li> <li>話し合いや発表を通して、自分の読みを振り返る。(個人)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>読み取りの根拠や風景描写の創作など、生徒が見通しをもって取り組めるようにワークシートを作成する。</li> <li>風景描写を考える手だてを与える。(例：季節や時間帯など本文に即して考えさせる。)</li> <li>読み取った内容と風景描写の関連性がわかるようにホワイトボードに記入させる。発表では根拠を明確にさせる。</li> <li>他グループの発表から、自分の読みとの相違点に気づかせ、なぜそのような違いが生じるのか考えさせたい。</li> </ul>
次	学習活動	深い学びに関する指導上の留意点									
第1次	<ul style="list-style-type: none"> <li>本単元では、小説の書き手の意図や人物の心情を根拠に基づいて読み味わう。</li> <li>小説を読んで、内容をとらえる。</li> <li>風景描写の効果について考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>文章の読みが恣意的なものにならないように、表現に即して読み味わうことを意識させる。</li> <li>当時の時代背景と今とを比較しながら読む。</li> <li>小説における風景描写が、人物の状況や心情を理解する手がかりであることを認識させる。</li> </ul>									
第2次	<ul style="list-style-type: none"> <li>最後の場面〔与三の心情〕をどのように読み取ったかを表現に即して考える。(個人)</li> <li>相似した考えのグループをつくり、〔与三の心情〕を反映した風景描写を考える。(グループ→発表)</li> <li>話し合いや発表を通して、自分の読みを振り返る。(個人)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>読み取りの根拠や風景描写の創作など、生徒が見通しをもって取り組めるようにワークシートを作成する。</li> <li>風景描写を考える手だてを与える。(例：季節や時間帯など本文に即して考えさせる。)</li> <li>読み取った内容と風景描写の関連性がわかるようにホワイトボードに記入させる。発表では根拠を明確にさせる。</li> <li>他グループの発表から、自分の読みとの相違点に気づかせ、なぜそのような違いが生じるのか考えさせたい。</li> </ul>									

## 【解説】

### 【指導事例と学習指導要領の関連】

本事例の指導事項は、次のとおりである。

イ 文章を読んで、書き手の意図や、人物、情景、心情の描写などを的確にとらえ、表現を味わうこと。  
「現代文B」内容(1)

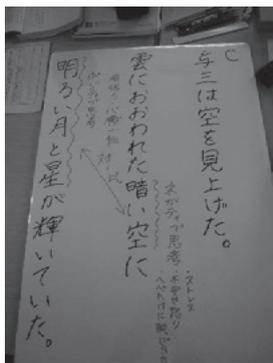
この指導事例を指導するのにふさわしいと考えた言語活動は次のとおりである。

ア 文学的な文章を読んで、人物の生き方やその表現の仕方などについて話し合うこと。  
「現代文B」内容(2)

### 【深い学びの実現に向けた工夫】

#### ○「読む」という行為

生徒たちの読書感想文を読むと、ただ単に文章を読んでまとめているものの何と多いことか。そこで、現代文の授業では「読む」とはどのような行為なのかを実感させたいと考えた。「人物、情景、心情の描写などを的確にとらえ」ることは重要な指導事項であるが、文学的な文章では授業者においても「読みの揺れ」がみられる場面がある。本単元の教材である『セメント樽の中の手紙』の最後はまさしくそういう場面であり、だからこそ「読む」という行為を明確に実感できるものとする。本事例では読み取った根拠を考えさせることによって、ただ単に文章を読んだ感想にとどまることなく、描かれた当時の社会、人間の生き方、作者の意図にまで踏み込んで感想を書いている生徒が多く、読みの深まりが確認できた。



#### ○風景描写の創作

『セメント樽の中の手紙』の末文はさまざまな解釈が可能である。生徒に「どう読むか」と初読の際に質問したところ「過酷な現状にますますやりきれなさを覚えている」・「現実を受け入れて家族のために頑張る覚悟」・「新しい命に未来の可能性をみている」等、やはり解釈が分かれた。

本事例ではそう読み取った根拠とともに、主人公の心情について風景描写を通して説明するという課題を設定した。本作品には、主人公の憤りとの関連性が確かに読み取れる風景描写が1箇所ある。これに倣い、末文にも風景描写を挿入するという試みである。主人公の心情を風景描写にのせることで、心情が印象的に伝わる効果をねらった。風景描写の創作に戸惑う生徒を予想して、ワークシート上に他小説の風景描写例を掲載し、そこから読み取れる心情を事前に確認した。生徒たちは、マイナス(暗い)感情、プラス(明るい)感情と、心情を明暗や色彩でとらえ、自らの語彙で的確に表現しようとしていた。

#### ○「主体的・対話的で深い学び」の視点

本事例では、相似した考えをもつ3～4人のグループをつくり、グループ内で発表させた後、代表作品を全体の場で発表させた。自分の考えを自分の言葉で発表することは次の学習意欲や自信につながる大切な場面である。発表で授業を完結させることなく、振り返りの時間を十分に設け、発表の効果を引き出したい。その際に、ホワイトボードや付箋は大変有効な教具である。各グループの工夫や自分たちとの比較が容易にできるからである。各作品に対しての評価や感想を付箋に書いて黒板に貼ることで、全員が共有でき、自分たちの読みに関する新たな課題も見えてきた。このことは、本作品に限らず、さまざまな文章を読む際に生かされる視点である。

「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて、課題設定や発問の精選、振り返りの重要性を実感した。



《与三の心情を読み取る》

組	番	氏名
---	---	----

【問一】「彼は、細君の大きな腹の中に七人めの子供を見た。」とあるが、この時の「与三の心情」はどのようなものだったか、具体的に説明しよう。

【問二】そのように「与三の心情」を読み取った根拠は何か。与三をとりまく状況をとらえつつ説明しよう。

【表現チャレンジ問題】

★読み取った「与三の心情」を風景描写を通して説明しよう！

- ・風景描写には、登場人物の心情を印象的に伝える効果がある。【問二】で答えた「与三の心情」を印象的に表現するために、どのような風景描写がふさわしいか、自由に考えてみよう。(視覚・聴覚・嗅覚・触覚などの感覚を研ぎ澄まして、文末にふさわしい風景を創造しよう)
- ①「与三の心情」は、マイナス？プラス？ ↓「与三の心情」と関連させる描写
- ②①をもとに、題材となる自然物を決める。(月・雨・風・川など)
- ③「与三の心情」を投影した風景描写を創作する。

彼は、細君の大きな腹の中に七人めの子供を見た。

《風景描写例・文中編》

- ・「彼の通る足もとでは木曾川の水が白く泡をかんて、ほえていた。」(セメント樽の中の手紙)
  - ・「夕間はしだいに空を低くして、見上げると、門の屋根が、斜めに突き出した葦の先に、重たく薄暗い雲を支えている。」(羅生門)
  - ・窓の外には、色あせた湖が、丘の多い岸に鋭く縁取られて、遠くかなたまで広がっていた。少年の日の思い出・斜陽は赤い光を、木々の葉に投げ、葉も枝も燃えるばかりに輝いている。(走れメロス)
- 《風景描写例・結末編》
- ・「外には、ただ、黒洞々たる夜があるばかりである。下人の行方は、誰も知らない。」(羅生門)
  - ・「私たちは手をつないで、夜の空に吸い込まれそうに、その時間に溶け合っていた。」(雪ウサギ)
  - ・「虎は、既に白く光を失った月を仰いで、二声三声咆哮したかと思うと、また、もとの叢に躍り入って、再びその姿を見なかった。」(山月記)
  - ・「しだいに更けてゆくおぼろ夜に、沈黙の人二人を乗せた高瀬舟は、黒い水の面をすべっていった。」(高瀬舟)

【発表の手順】

- ① グループ内で発表。(風景描写とその説明：「与三の心情」と関連させたポイント)
- ② 代表作品を決める。
- ③ その作品をみんなで推敲する。(よりよくする)
- ④ ボードに書き入れる。(黒：風景描写 赤：与三の心情・ポイント)
- ⑤ 全体発表。

【振り返り】

- ① 表現チャレンジ問題《風景描写》の自己評価  
「与三の心情」を風景描写を通して説明することができたか。 A 明確な関連性・根拠
- ② 他グループの発表を聴いた感想・気づき

- ③ 創作活動・発表を通して、あなたが考える「与三の心情」に変化はあったか。  
あった なかった

- ④ ③で「あった」と答えた人はどのように変化したか、「なかった」と答えた人は、自分の考えとは異なる「与三の心情」についてどう思うか。

- ⑤ 最後の一文をどう読むかで、この小説全体の印象が大きく変わる。もう一度、作品全体を振り返り、この作品をどう読んだか、あなたの考えを述べてみよう。(読者として何をどう受け取ったか)

組	番 氏 名
---	-------

【与三の心情を読み取る】

【問一】「彼は、細君の大きな腹の中に七人めの子供を見た。」とあるが、この時の「与三の心情」はどのようなものだったか、具体的に説明しよう。

少し前までは、現実から逃げたかたは、自分には新しく養わなければいけない子供が増えぬと思いかえし、現実をみようと思つた。

【問二】そのように「与三の心情」を読み取った根拠は何か。与三をとりまく状況をとらえつつ説明しよう。

① 女工からの手紙を読み終えた時点で、与三は怒り、酔い、はらうも、もうどうにもならないことを理解していた。そして、最後に茶碗についであったお酒をぐと一息に飲んで、どうなることか今までのマイナスな気持ち、プラスにきりかえん張張、ていつと決意した。

【表現チャレンジ問題】

★読み取った「与三の心情」を風景描写を通して説明しよう！

風景描写には、登場人物の心情を印象的に伝える効果がある。【問一】で答えた「与三の心情」を印象的に表現するために、どのような風景描写がふさわしいか、自由に考えてみよう。視覚・聴覚・嗅覚・触覚などの感覚を研ぎ澄まして、文末にふさわしい風景を創造しよう。

- ① 「与三の心情」は、マイナス？ プラス？ ↓ 「与三の心情」と関連させる描写
- ② ①をもとに、題材となる自然物を決める。(月・雨・風・川など)
- ③ 「与三の心情」を投影した風景描写を創作する。

彼は、細君の大きな腹の中に七人めの子供を見た。  
 その日の夜は、今までのないくらい星が綺麗だ。つぼみまよう。  
 大人の子供は窓の外を見て、星がキレイだねと与三にほほえた。  
 その日の夜は、今までのないくらい星が綺麗だ。子供たちも星が綺麗だねと与三にほほえた。

【風景描写例・文中編】

「夜の通る足もとは木曾川の水が白く泡をかんて、ほえていた。」(セメント樽の中の手紙)

「夕陽はしだいに空を低くして、見上げると、門の屋根が、斜めに突き出した雲の先に、またく薄暗い雲を支えている。」(羅生門)

「窓の外には、色あせた湖が、丘の多い単に鋭く輪取られて、遠くかなたまで広がっていた。」(少年の日の思い出)

「斜陽は赤い光を、木々の葉に投げ、葉も枝も燃えるばかりに輝いている。」(走れメロス)

【風景描写例・結末編】  
 「外には、ただ、黒雨々たる夜があるばかりである。下人の行方は、誰も知らない。」(羅生門)  
 「私たちは手をこたないで、夜の空に飛び込まれそうに、その時間と溶け合っていた。」(雷ウサギ)  
 「虎は、既に白く光を失った月を仰いで、二声三声咆哮したかと思うと、また、もとの敷に躍り入って、再びその姿を見せた。」(山月記)  
 「しだいに更けてゆくおぼろる夜に、沈黙の人二人を乗せた高瀬舟は、黒い水の面をすべっていった。」(高瀬舟)

【発表の手順】

- ① グループ内で発表。(風景描写とその説明) 「与三の心情」と関連させたポイント
- ② 代表作品を決める。
- ③ その作品をみんなで推敲する。(よりよくする)
- ④ ポードに書き入れる。(黒：風景描写 赤：与三の心情・ポイント)
- ⑤ 全体発表。

【振り返り】

① 表現チャレンジ問題(風景描写)の自己評価  
 「与三の心情」を風景描写を通して説明することができたか。 A 明確な関連性・根拠

② 他グループの発表を聴いた感想・気づき

同じことを考えた人でも、表現の仕方が少し違うだけで話の内容の奥深さが変わること気づいた。

③ 創作活動・発表を通して、あなたが考える「与三の心情」に変化はあったか。  
 あった なかった

④ ③で「あった」と答えた人はどのように変化したか、「なかった」と答えた人は、自分の考えとは異なる「与三の心情」についてどう思うか。

与三がこれからのことをまだ悩んでいるという意見や、子ども将来のときの社会が変わり、いれればいいという意見は自分にはない発想だったけれど、人によって感じることがそれぞれ違うことに気づいた。

⑤ 最後の一文をどう読むかで、この小説全体の印象が大きく変わる。もう一度、作品全体を振り返り、この作品をどう読んだか、あなたの考えを述べてみよう。(読者として何をどう受け取ったか)

私はこの作品は、女工の恋人は、社会のせいであらう死んでしまったけど、手紙を受取った誰かの大切な人は、生きていて、生きていられるから、それだけで幸せだと感じ、頑張るって生きていくという女工からの誰かにあたたかみを感じた。

《与三の心情を読み取る》

組 番 氏名

【問一】「彼は、細君の大きな腹の中に七人めの子供を見た。」とあるが、この時の「与三の心情」はどのようなものだったか、具体的に説明しよう。

次に産まれてくる七人目の子供や家族を養っていく為に頑張る働かないといけなない。

【問二】そのように「与三の心情」を読み取った根拠は何か。与三をとりまく状況をとらえつつ説明しよう。

日当り九十銭の過酷な労働と女工の手紙で「八人めはもういらない」といって細君に怒り腹の中の子供を見て身近にある大切な物に気がつき正気は戻らない

【表現チャレンジ問題】

★読み取った「与三の心情」を風景描写を通して説明しよう！

風景描写には、登場人物の心情を印象的に伝える効果がある。【問一】で答えた「与三の心情」を印象的に表現するためにどのような風景描写がふさわしいか、自由に考えてみよう。(視覚・聴覚・嗅覚・触覚などの感覚を研ぎ澄まして文末にふさわしい風景を創造しよう)

- ①「与三の心情」は、マイナス？プラス？、「与三の心情」と関連させる描写
- ②①をさらに題材となる自然物を決める。(月・雨・風川など)
- ③「与三の心情」を投影した風景描写を創作する。

彼は、細君の大きな腹の中に七人めの子供を見た。

外の冷たい風が吹く風はしどろしどろと止んでいき、雲に隠れていなくなった。顔を押し出し、町を明るく照らしている。未来への希望が見えた。不安定な世の中

【風景描写例・文中編】

・「彼の通る足もとでは木曾川の水が白く泡をかんで、ぼえていた。」(セメント樽の中の手紙)

・「夕陽はほかに空を低くして、見上げると、門の屋根が、斜めに突き出した葉の先に、重たく降着いた雲を支えている。」(羅生門)

・窓の外には、色あせた湖が、丘の多い岸に鋭く縁取られて、遠くかなたまで広がっていた。夕陽の日の影は、斜陽は赤い光を、木々の葉に投げ、葉も枝も燃えるばかりに輝いている。(走れメロス)

・「外には、ただ、黒濁々たる夜があるばかりである。下人の行方は、誰も知らない。」(羅生門)

・「私たちは手をうつないで、夜の空に吸い込まれそうに、その時間に溶け合っていた。」(雲のうさぎ)

・「彼は、既に白く光を失った月を仰いで、二声三声咆哮したかと思つた。また、もとの兼に躍り入って、再びその姿を見なかつた。」(山月記)

・「しだいに夜がゆくおぼろ夜に、沈黙の人二人を乗せた高瀬舟は、黒い水の面をすべっていた。」(高瀬舟)

【発表の手順】

① グループ内で発表。(風景描写とその説明：「与三の心情」と関連させたポイント) 代表作品を決める。

② その作品をみんなで推敲する。(よりよくする) ポイントに書き入れる。(黒：風景描写 赤：与三の心情・ポイント) 全体発表。

③ 他グループの発表を聴いた感想・気づき

④ グループによって最後の文を読んだとき、考えが違つた方向や一方向の考えがあった。

⑤ 創作活動・発表を通して、あなたが考える「与三の心情」に変化はあったか。

あった なかった

③で「あった」と答えた人はどのように変化したか、「なかった」と答えた人は、自分の考えとは異なる「与三の心情」についてどう思うか。

④各グループの発表を聞いて十の考えがあったけど、大なる家族を養っていくだけなら三三の考えを聞いて十の考えがもう少しの考えになつた。

⑤最後の一文をどう読むかで、この小説全体の印象が大きく変わる。もう一度、作品全体を振り返り、この作品をどう読んだか、あなたの考えを述べてみよう。(読者として何をどう受け取ったか)

葉山さんはこの作品を通してその時代の労働の過酷さをみんなに知ってほしかった人ばかりだった。

《与三の心情を読み取る》

組 番 氏 名

【問一】「彼は、細君の大きな腹の中に七人めの子供を見た。」とあるが、「この時の「与三の心情」はどのようなものだったか、具体的に説明しよう。」

過酷な労働状況に怒りを感じるが、女工の恋人のように亡くなつた人もいれば、新しい命を授けてくれる子供もいるので、与三は命の大切さを実感し、生まれてくる子供のためにも仕事を頑張り、ていこうと思つた。

【問二】そのように「与三の心情」を読み取った根拠は何か。与三をとりまく状況をとらえつつ説明しよう。

与三は何もかも嫌になつて全てを投げ出したくなつたけど、最後の細君の言葉を聞いたとき、現実に戻り、細君の大きな腹の中に七人目の子供を見て、何よりも大切なのは命だと気づいたから。

【表現チャレンジ問題】

★読み取った「与三の心情」を風景描写を通して説明しよう！

風景描写には、登場人物の心情を印象的に伝える効果がある。【問一】で答えた「与三の心情」を印象的に表現するために、どのような風景描写がふさわしいか、自由に考えてみよう。(視覚・聴覚・嗅覚・触覚などの感覚を研ぎ澄まして、文末にふさわしい風景を創造しよう。)

- ①「与三の心情」は、マイナス？プラス？ ↓「与三の心情」と関連させる描写
- ②①をもとに、題材となる自然物を決める。(月・雨・風・川など)
- ③「与三の心情」を投影した風景描写を創作する。

彼は、細君の大きな腹の中に七人めの子供を見た。

窓からのぞいた夜空には、一つだけ星が輝いていた。

た。た一つの大切な命

〔風景描写例・文中編〕

・彼の通る足もとでは木曾川の水が白く泡をかんで、ほえていた。「セメント樽の中の手紙」  
・夕陽ははだいに空を低くして、見上げると、門の屋根が、斜めに突き出した壁の先に、重たく薄暗い雲を支えている。(羅生門)

・窓の外には、色あせた湖が、丘の多い岸に鋭く縁取られて、遠くかなたまで広がっていた。「少年の日の思い出」  
・斜陽は赤い光を、木々の葉に投げ、葉も枝も燃えるばかりに輝いている。(走れメロス)

・外には、ただ、黒濁々たる夜があるばかりである。下人の行方は、誰も知らない。「羅生門」  
・私たちは手をこまねいて、夜の空に吸い込まれそうに、その時間に溶け合っていた。「雪割草」  
・虎は、既に白く光を失った月を仰いで、二声三声咆哮したかと思うと、また、もとの巖に躍り入って、再びその姿を見なかった。「山月記」

・しだいに更けてゆくおぼろ夜に、沈黙の二人を乗せた高瀬舟は、黒い水の面をすべっていった。「高瀬舟」

【発表の手順】

- ① グループ内で発表。(風景描写とその説明：「与三の心情」と関連させたポイント)
- ② 代表作品を決める。(よりよくする)
- ③ その作品をみんなで推敲する。(黒・風景描写 赤・与三の心情・ポイント)
- ④ ボードに書き入れる。(黒・風景描写 赤・与三の心情・ポイント)
- ⑤ 全体発表。

【振り返り】

- ① 表現チャレンジ問題(風景描写)の自己評価 A B C
- ② 「与三の心情」を風景描写を通して説明することができたか。 A 明確な関連性・根拠
- ③ 他グループの発表を聴いた感想・気づき

他のグループの発表を聞いて、同じような考えでも、様々な風景描写があってなるほどと思うことか、たくさんあり、表現の仕方が変わらななと、面白かった。

- ③ 創作活動・発表を通して、あなたが考える「与三の心情」に変化はあったか。あった なかった

③で「あった」と答えた人はどのように変化したが、「なかった」と答えた人は、自分の考えとは異なる「与三の心情」についてどう思うか。

私はプラスの方で考えていたけど、マイナスの方の考えを聞いて、現実的に考えるに厳しい労働条件の中で仕事をすることに前向きに考えていくのは、厳しいのかなと思いました。

- ⑤ 最後の一文をどう読むかで、この小説全体の印象が大きく変わる。もう一度、作品全体を振り返り、この作品をどう読んだか、あなたの考えを述べてみよう。(読者として何をどう受け取ったか)

私はこの作品は、仕事をすることの大変さや、命の大切さを伝えたいのかなと、考えました。何よりも大切な命だと気づきました。

【学習活動の概要】

1 単元名		自分の考えを効果的に説明するために必要な資料を作成しよう	
2 単元の目標		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 目的に応じた表現の仕方を考えようとする。 <span style="float: right;">（関心・意欲・態度）</span></li> <li>・ 文章を読んで、社会について自分の考えを深める。 <span style="float: right;">（読む能力）</span></li> <li>・ 目的に応じた資料の作成や引用をする。 <span style="float: right;">（書く能力）</span></li> <li>・ 語句の用法を的確に理解する。 <span style="float: right;">（知識・理解）</span></li> </ul>	
3 単元の評価規準			
関心・意欲・態度	書く能力	読む能力	知識・理解
目的に応じた表現の仕方を考えようとしている。	目的に応じた資料の作成や引用をしている。	文章を読んで、社会について自分の考えを深めている。	語句の用法を的確に理解している。
4 単元の概要			
<p>本文で言及される、両義性のあるテーマを実際の例と照応する。適切な資料の作成や引用によって、本文をふまえた小論文を書く。説得力のある小論文を書くために資料を準備し一貫性を確認する活動をとおして、目的に応じた表現への視野を広げる。</p> <p>教材 「スポーツとナショナリズム」（阿部潔）</p> <p>教具 教科書、世界史図説（その他個々で収集した資料を含む）、ワークシート、タイマー</p>			
5 単元の指導計画			
次	学習活動	深い学びに関する指導上の留意点	
第1次	<p>〈アイディアシートの記入〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 導入として、オリンピックやワールドカップの盛り上がりについて話し合う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 読解前の段階で、スポーツ国際大会で無意識に自国を応援していることに気付かせる。</li> <li>・ オリンピック等に関心のない生徒へは「なぜ世間が盛り上がっているのか」を考えさせる。</li> <li>・ ナショナリズムが「文明化」「野蛮化」した例を調べるよう指示する。</li> <li>・ 図書室や情報処理室の利用も必要に応じて行う。</li> <li>・ 説得力を持たせるために必要な事柄に気づかせる。</li> <li>・ 助言から視野を広げ、より良い小論文となるように支援する。</li> </ul>	
第2次	<p>〈本文読解〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ナショナリズムが「文明化」「野蛮化」の両面を持つことを理解する。</li> <li>・ 論理ストックシートで要旨、本文への気づきを記入する。</li> </ul>		
第3次	<p>〈意見文作成〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 最終段落を用いて「野蛮化」の具体例を分析しながら、小論文を作成する。</li> <li>・ 論を補強できる資料を作成または引用する。</li> <li>・ 概要を発表し、助言から小論文を推敲する。</li> </ul>		

## 【解説】

### 【指導事例と学習指導要領の関連】

本事例の指導事項は次のとおりである。

エ 目的や課題に応じて、収集した様々な情報を分析、整理して資料を作成し、自分の考えを効果的に表現すること。 「現代文B」内容(1)

この指導事項を指導するのにふさわしいと考えた言語活動は次のとおりである。

エ 文章を読んで関心をもった事柄などについて課題を設定し、様々な資料を調べ、その成果をまとめて発表したり報告書や論文集などに編集したりすること。 「現代文B」内容(2)

### 【深い学びの実現に向けた工夫】

#### ○計画作成上の留意点

近年、小論文や志望理由書、ポートフォリオといった、生徒が自分の意見等を書く機会が増えているが、主観による経験や奇抜さを生徒たちは追い求めてしまいがちである。また、情報を得ているものの、その情報を小論文等に組み込むことができないということが散見される。小論文等における独自性は、社会的事象への分析をとおして担保されるはずが、生徒たちがそのことに気づかずにいるのではないかと危惧し、今回の研究授業を設定した。評論読解後に要旨と関連した小論文テーマ設定をすることで、本教材だけでなく他の評論教材でも行える。どの教材でも書くことに関する授業が展開できることを示すため、本授業は定番教材ではないもので設定した。

なお、「論理ストックシート」は、要約や自分の考えを記録しておくものであり、教材が異なっても同じ著者や同じ分野で比較や他者との意見交換もしやすいため、普段の授業や週末課題、模試の振り返りでも活用している。ストック数が増えると、自分自身で意見の変容や知識の重層化を感じることができるようになる。

#### ○実施後の成果

まず、成果として挙げられるのは説得力のある論を練るためには、客観的な資料が必要だと生徒が実感できたことである。これまでも国語や探究活動で資料を探し引用元を明らかにすることを行ってきたが、本単元を通じて必要な資料に自らアクセスする姿勢を身につけられた。ただし、インターネット資料での孫引きが散見されたため、正しい情報の入手法等を継続して指導する必要がある。



また、書くことだけでなく読むことにおいても、具体と抽象を理解することは必要であるが、混同して考えてしまうことがあった。自分で具体例を探すことで具体と抽象の区別を差別化ができるようになった生徒も見られたため、読む能力での相互作用も期待できる。個やペア、グループでの活動によって、生徒たち自身で学びあうよう準備をすることで、教員はファシリテーターとして援助をすることができた。

#### ○実生活の「書くこと」と結びつく国語であるために

評論のテーマと関連した社会的事象に関心をもつことで、近い将来必要とされる就職進学試験に対応する能力だけでなく、その先でも必要とされる課題発見や調査、取捨選択といった能力も伸長できるであろう。スマートフォンの普及により、筆記具を用いて書く機会は減少しているが、意見の形成や情報の送受信をする機会は減少していないと考えられる。前述した小論文等の提出、生徒たちにとって身近なSNSの利用があるからだ。授業内容を授業のみで完結してしまうのではなく、生活と結びつけて状況に応じた情報の選別や効果的な主張ができるよう、活動を組み込んでいきたい。

書くことに対する生徒の実態は勤務校や学科によって異なるが、卒業時の到達目標から逆算し、当該学年や当該単元での目標、字数や難易度の設定を行うといった、3カ年計画をしていくことが今後求められるようになるだろう。学校目標や学年目標に合わせて、時に他教科と連携しながら授業が展開できると、生徒自身が授業と様々な事象を結びつけられるようになる。自分と結び付け、多様な情報を収集し、自分の考えを形成することで深い学びとなるだろう。



スポーツとナショナリズムの結びつきについて、「野蛮化」の具体例を分析してまとめよ。

1 スポーツとナショナリズムとの結びつきについて考えていく際に必要とされるのは、白黒をハッキリさせるような価値判断を下すことではなく、どのような政治・文化的な状況のもとでスポーツ・ナショナリズムがその姿を現しているのかを冷静かつ仔細に見極めていくことであろう。

2 たとえば、「野蛮化」の例として1936年ベルリンオリンピックが挙げられる。  
(資料からわかった政治・文化的な状況を直接引用か間接引用によってまとめる。引用シートを添付すること。)

- ・ 別名「ナチ・オリンピック」と呼ばれていたドイツはオリンピックの場を国威発揚の機会とし、最も攻撃的に(しかも悪意の形で)利用した。ヒトラーの閣議室の中には10万人を超える観客がナチ式の敬礼をするなど、異様な興奮の中で幕を捲いた。さらに、大会の模様は記録映画として映画化され、世界中で多くの観客を魅了。ナチの7000人カンパニーの成功をおさめた。(嶋田, 2011)。
- ・ ① 国家の画原があり、その画原は、ナチ政権の獲得と、非アリア人一般の排除から非アリア人を排除することであった。特に、ユダヤ人の強圧が顕著で、ユダヤ人は、1936年のトレーニング競技が物理的にも心理的にも不可能であった。(嶋田)

3 (具体例をふまえて最初の段落を言い換える。)

スポーツとナショナリズムとの結びつきは、多くの場合は白黒にまじりすぎという考えだが、政治・文化的な背景を考慮することによって、現れている重要な相違点がある。

① スポーツイベントの機会に冷静かつ仔細に

※ どのような資料が必要か、用意する資料について書いてみよう。

世界中  
p.254  
p.268  
p.309  
p.311

ベルリンオリンピックの政治・文化的な状況についての資料。

※ 引用した資料について、情報をまとめよう。

- ・ ヒトラーは「ナチ・オリンピック」を「ナチ・オリンピック」として、国威発揚のために利用した。特に、深刻化したユダヤ人の強圧
- ↓
- ・ 後に、記録映画として映画化

※ アドバイスしてもらったことを書き込もう。



スポーツとナショナリズムの結びつきについて、「野蠻化」の具体例を分析してまとめよ。

Main handwritten text area for the first page, containing the student's response to the prompt.

Form fields for student information: 学年 (Year), 組 (Group), 番 (Number), 氏名 (Name).

Administrative form fields: 記入日 (Date), 提出日 (Submission Date), 点検日 (Check Date), 返却日 (Return Date), 検1 (Check 1), 検2 (Check 2).

スポーツとナショナリズムの結びつきについて、「野蠻化」の具体例を分析してまとめよ。

Main handwritten text area for the second page, continuing the student's response.

Form fields for student information: 学年 (Year), 組 (Group), 番 (Number), 氏名 (Name).

Administrative form fields: 記入日 (Date), 提出日 (Submission Date), 点検日 (Check Date), 返却日 (Return Date), 検1 (Check 1), 検2 (Check 2).

【学習活動の概要】

1 単元名 文章中の人物描写から、作者の作品に込めた考えを読み取ろう		
2 単元目標		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・物語を通して、描かれた時代の文化や人間の心理を深く考えようとする。（関心・意欲・態度）</li> <li>・物語を読んで、描かれた時代の文化や人間の心理、作者の意図について自分の考えを深める。 (読む能力)</li> <li>・古語の意味、敬語表現について理解しながら読む。 (知識・理解)</li> </ul>		
3 単元の評価規準		
関心・意欲・態度	読む能力	知識・理解
物語を通して、描かれた時代の文化や人間の心理について、自分の考えを深めようとしている。	物語を読んで、描かれた時代の文化や人間の心理、作者の意図について自分の考えを深めている。	古語の意味、敬語表現について理解しながら、口語訳している。
4 単元の概要		
<p>教科書に採用されている章段とその前後の内容を読み、登場人物の描かれ方を比較し、作者が表現したかったもの、読者に対して読みとらせたかったものが何であるかを考察する。</p> <p>教材 『源氏物語』 「光源氏の誕生」</p> <p>教具 教科書、図書資料（古典文学全集『源氏物語』の「桐壺」後半部分「藤壺入内」）</p>		
5 単元の指導計画		
次	学習活動	深い学びに関する指導上の留意点
第1次	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「桐壺更衣の死」「藤壺入内」「高麗人の観相」の本文を読み、内容を捉える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループでそれぞれ三つの資料を読ませる。桐壺、藤壺、弘徽殿女御、光源氏の描かれ方に着目させる。この時、読んで分かる客観的な特徴ではなく「作者がどう描こうとしたのか」ということまで考えを深めるよう指示する。</li> </ul>
第2次	<ul style="list-style-type: none"> <li>・作者が人物をどのように描いていたか、その違いをグループで話し合い発表する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前に、他グループが気づかない観点を発表してもらうことを告げ、より広い視野で描かれ方の違いを見つけられるようにする。</li> </ul>
第3次	<ul style="list-style-type: none"> <li>・描かれ方の違いをもとに、作者がどのような意図をもって作品を描いたのかを考え、論述する。</li> <li>・グループ内で相互に発表させ更に新しい観点で作品を捉える。</li> <li>・グループの代表者を選出し、全体でも発表する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一次、二次でのグループ活動で聞いた他者の考えも、自分の考えを広げ、深めるために用いて良いことを伝えて、より深い視点で論述させる。</li> <li>・発表者の考え方で気付かされたことは、新たな観点の一つとして、自分のシートに記述するよう指示する。</li> </ul>

## 【解説】

### 【指導事例と学習指導要領の関連】

本事例の指導事項は次の通りである。

ウ 古典を読んで、人間、社会、自然などに対する思想や感情を的確にとらえ、ものの見方  
感じ方、考え方を豊かにすること。 「古典B」内容(1)

この指導事項を指導するのにふさわしいと考えた言語活動は次の通りである。

ウ 古典に表れた人間の生き方や考え方などについて、文章中の表現を根拠にして話し合う  
こと。 「古典B」内容(2)

### 【深い学びの実現に向けた工夫】

#### ○教材・資料

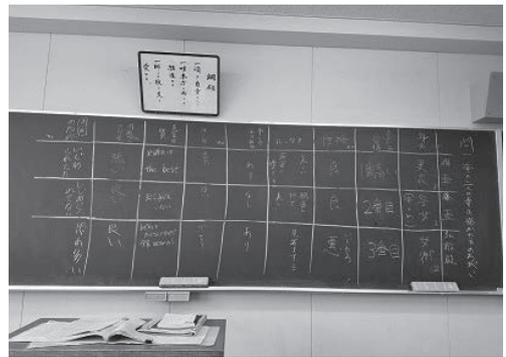
本文は授業で訳出、文法の確認を済ませたものを用い、配布した資料にはあえて訳語を載せた。源氏物語の特性上、仮に辞書を用いて訳出しながら読んだとしても、主語を判別しにくい部分が多く出てくるためである。もっと平易な文であれば、訳語をつけずに深い読み取りをさせることは可能だと思われる。ワークシートは人物の描かれ方を比較する内容と、それを用いて自分の考えを記述する枠があるだけにした。資料の文章量が多いため、多くを問いかけて何を考えればよいのかわからなくなるよりも、内容を2～3個にしぼって問い、その分じっくり考えさせることを重視した。分量としてもちょうどよかったように思う。

#### ○グループと個の活動の使い分け

今回は複数の資料を読む活動であったため、文章をベースに考察するところまではグループで行い、最後の論述部分だけは個人の活動として設定した。より多くの考えや視点を獲得するためには、グループは効果的であり、獲得したものを使って自分の学びを深化させられたかどうかは、人にそれを論理的に説明できるかどうかで見ることができた。実際、自分の知っている知識や、日本史の授業で学んだことと関連させながら論述する生徒もおり、学びの深まりがあったと感じられた。実際は実行できなかったが、社会科で日本史を選択している生徒を各グループに配置したならば、もっと深い考察がなされたかもしれない。また、教科横断型の授業にしていくことも可能だろう。

#### ○作者目線での読解

随筆、日記とは異なり、物語は作者の意識が文中に直接的に表れることはあまりない。しかし、どのように描いているかを分析することで、作者がどのように読ませたいのかが見えてくる。第2次で、人物の描かれ方を比較し発表させた際には、人物についてのより詳細なイメージが挙げられていた。訳出させながら読んだ時以上に、登場人物についての理解を深められる。



#### ○読むことへの関心、意欲

古典は「適切に読む」ためだけのものではない。現代人が現代の書籍を読むように、古典の時代に生きた人々も様々な角度から、自分なりに考えを持ちながら読んでいたはずである。そうした当時の人々の目線に意識を向けられるものとして古典を読むことができた時、単に知識を用いて形式的に訳す以上の、発見や感動を得られるのではないかと考えた。

今回は、読者側として読ませた後、作者側に立って作品を読ませたが、生徒は作者の狙いや作品の奥深さ、当時の社会にまで思考を巡らせることができた。新しい視点を得られたことで、もっと他の作品も読んでみたいという感想を述べる生徒もいた。











**【学習活動の概要】**

<b>1 単元名</b>	登場人物の心情を掘り下げて考えよう													
<b>2 単元の目標</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・物語世界の社会制度や習慣を理解し、古典作品への興味・関心を高める。(関心・意欲・態度)</li> <li>・登場人物の置かれた立場や状況を踏まえてその心情を読み取り、理解する。(読む能力)</li> <li>・助動詞や敬語表現などの、古文を読むための語句や文法事項について理解する。(知識・理解)</li> </ul>													
<b>3 単元の評価規準</b>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <tr> <td style="width: 33%;">関心・意欲・態度</td> <td style="width: 33%;">読む能力</td> <td style="width: 33%;">知識・理解</td> </tr> <tr> <td>物語世界の社会制度や習慣を理解し、古典作品への興味・関心を高めている。</td> <td>登場人物の置かれた立場や状況を踏まえてその心情を読み取り、理解している。</td> <td>助動詞や敬語表現などの、古文を読むための語句や文法事項について理解している。</td> </tr> </table>		関心・意欲・態度	読む能力	知識・理解	物語世界の社会制度や習慣を理解し、古典作品への興味・関心を高めている。	登場人物の置かれた立場や状況を踏まえてその心情を読み取り、理解している。	助動詞や敬語表現などの、古文を読むための語句や文法事項について理解している。						
関心・意欲・態度	読む能力	知識・理解												
物語世界の社会制度や習慣を理解し、古典作品への興味・関心を高めている。	登場人物の置かれた立場や状況を踏まえてその心情を読み取り、理解している。	助動詞や敬語表現などの、古文を読むための語句や文法事項について理解している。												
<b>4 単元の概要</b>	<p>グループで話し合い、意見をまとめる活動を通して、登場人物の立場や状況、相互の関係性を踏まえながら「紫の上」の苦悩の内実について理解を深める。</p> <p>教材 『源氏物語』「紫の上の苦悩」</p> <p>教具 図書資料(抜粋)、ワークシート、ホワイトボード、付箋</p>													
<b>5 単元の指導計画</b>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;">次</th> <th style="width: 40%;">学習活動</th> <th style="width: 50%;">深い学びに関する指導上の留意点</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">第1次</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本文を読み、内容を捉える。</li> </ul> </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>・詳細な解説は行わないが、大まかな現代語訳を提示して、登場人物の関係性を把握させる。</li> </ul> </td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">第2次</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>・グループで資料(A, B, Cのうち1種類)を読み、紫の上の苦悩に関連する事柄や考えを付箋に書いて、ワークシート上にまとめる。</li> <li>・他のグループが話し合った内容を聞き取り、分かったことを付箋で追加する。</li> <li>・紫の上の苦悩について、グループで話し合った意見をホワイトボードにまとめ、発表する。</li> </ul> </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>・登場人物の人物像や当時の社会背景に関する資料A～Cのうち、1種類を配付する。グループでアイデアを出しながら考えを広げていく活動をさせる。</li> <li>・テーマの異なるA～Cの3種類の資料を用意し、各班とは異なる資料について検討した他のグループの意見を反映させることで、課題について様々な視点から考える姿勢を促す。</li> <li>・ホワイトボードの記述は、単語の羅列ではなく文章で表現すること、視覚的に分かりやすいことを意識させる。</li> </ul> </td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">第3次</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>・グループでの話し合い活動、各グループの発表を踏まえて、改めて紫の上の苦悩について個人で考え、その内容を記述する。</li> </ul> </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本文に立ち返り、自分の考えの根拠となる部分を提示させることで理解を深めさせる。</li> </ul> </td> </tr> </tbody> </table>		次	学習活動	深い学びに関する指導上の留意点	第1次	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本文を読み、内容を捉える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・詳細な解説は行わないが、大まかな現代語訳を提示して、登場人物の関係性を把握させる。</li> </ul>	第2次	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループで資料(A, B, Cのうち1種類)を読み、紫の上の苦悩に関連する事柄や考えを付箋に書いて、ワークシート上にまとめる。</li> <li>・他のグループが話し合った内容を聞き取り、分かったことを付箋で追加する。</li> <li>・紫の上の苦悩について、グループで話し合った意見をホワイトボードにまとめ、発表する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・登場人物の人物像や当時の社会背景に関する資料A～Cのうち、1種類を配付する。グループでアイデアを出しながら考えを広げていく活動をさせる。</li> <li>・テーマの異なるA～Cの3種類の資料を用意し、各班とは異なる資料について検討した他のグループの意見を反映させることで、課題について様々な視点から考える姿勢を促す。</li> <li>・ホワイトボードの記述は、単語の羅列ではなく文章で表現すること、視覚的に分かりやすいことを意識させる。</li> </ul>	第3次	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループでの話し合い活動、各グループの発表を踏まえて、改めて紫の上の苦悩について個人で考え、その内容を記述する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本文に立ち返り、自分の考えの根拠となる部分を提示させることで理解を深めさせる。</li> </ul>
次	学習活動	深い学びに関する指導上の留意点												
第1次	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本文を読み、内容を捉える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・詳細な解説は行わないが、大まかな現代語訳を提示して、登場人物の関係性を把握させる。</li> </ul>												
第2次	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループで資料(A, B, Cのうち1種類)を読み、紫の上の苦悩に関連する事柄や考えを付箋に書いて、ワークシート上にまとめる。</li> <li>・他のグループが話し合った内容を聞き取り、分かったことを付箋で追加する。</li> <li>・紫の上の苦悩について、グループで話し合った意見をホワイトボードにまとめ、発表する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・登場人物の人物像や当時の社会背景に関する資料A～Cのうち、1種類を配付する。グループでアイデアを出しながら考えを広げていく活動をさせる。</li> <li>・テーマの異なるA～Cの3種類の資料を用意し、各班とは異なる資料について検討した他のグループの意見を反映させることで、課題について様々な視点から考える姿勢を促す。</li> <li>・ホワイトボードの記述は、単語の羅列ではなく文章で表現すること、視覚的に分かりやすいことを意識させる。</li> </ul>												
第3次	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループでの話し合い活動、各グループの発表を踏まえて、改めて紫の上の苦悩について個人で考え、その内容を記述する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本文に立ち返り、自分の考えの根拠となる部分を提示させることで理解を深めさせる。</li> </ul>												

## 【解説】

### 【指導事例と学習指導要領の関連】

本事例の指導事項は次のとおりである。

ウ 古典を読んで、人間、社会、自然などに対する思想や感情を的確にとらえ、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにすること。 「古典B」内容(1)

この指導事例を指導するのにふさわしいと考えた言語活動は次のとおりである。

ウ 古典に表れた人間の生き方や考え方などについて、文章中の表現を根拠にして話し合うこと。 「古典B」内容(2)

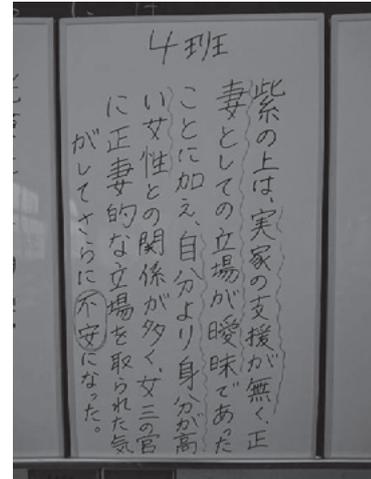
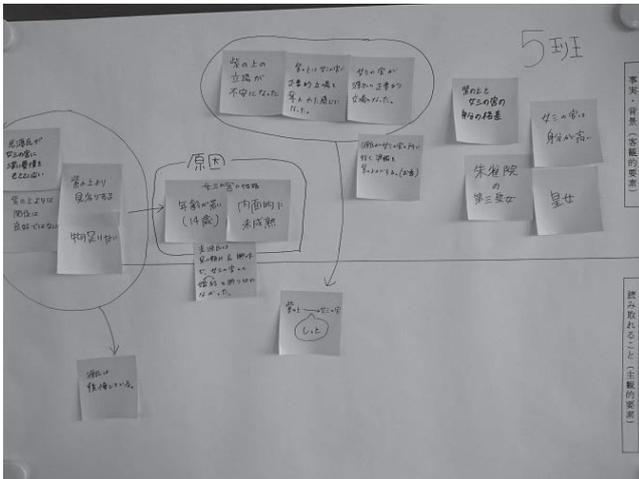
### 【深い学びの実現に向けた工夫】

#### ○ グループ活動から個人の理解につなげる

『源氏物語』のような難易度の高い文章の読解において、時代背景や登場人物の立場など様々な要素を踏まえない場合が多い。一方的な説明ではなく、グループで話し合いながら資料の内容を吟味する活動を取り入れることで、生徒が主体的に作品世界に向き合い、難解な部分も自分たちで読解しようとする様子が見られた。また、付箋でアイデアを出し合ったり、他のグループの意見を取り入れたりとすることで、登場人物や話の全体の流れについて様々な角度から考えることができていた。多くの視点で捉える経験が、グループ活動後の個人の考察の深まりにつながっていると見える。ほとんどの生徒が、グループ活動後は活動前の4、5倍の量を書き込み、内容も充実していた。生徒自身も自分の理解が深まったことを実感でき、自信につながっていると感じる。

#### ○ 学習の手法やツールの活用

本事例では、グループ活動における資料は3テーマあり、はじめに自分のグループのテーマについて話し合った後、次に異なるテーマのグループに聞き取りに行くという方法を用い、ジグソー法の手法を取り入れた形となった。付箋やホワイトボードを取り入れた授業は、前年度の古典Bや他教科でも実施しており、生徒は特に構えることなく取り組むことができている。付箋やホワイトボード、ワークシートなどがアイデアを出したり意見を交換したりするきっかけとなり、普段はあまり話さない生徒同士でもスムーズに話し合いを進めることができる。授業の内容や生徒の実情に合った手法・ツールを活用することは、深い学びの実現に向けて重要であると実感している。



#### ○ 「主体的な学び」「深い学び」の深化に向けて

「深い学び」とは、自分たちでテーマや課題を設定し、その解決に向けた調査を行い、調査結果を考察する、という流れが最たるものではないかと思う。本事例では、『源氏物語』を教材として取り上げるのが初めてであったことや授業を実施した学年や時期の関係などから、テーマ設定や資料の収集はできなかった。しかし、作品中における登場人物の変容について、他の平安文学との比較についてなど、様々なテーマ・課題の設定が可能である。本事例における事後アンケートで、「『源氏物語』の他の章段も読んでみたい」という生徒の意見があり、主体的でより深い学びにつながる意欲が感じられた。古文に限らず様々な場面で、生徒に対し、自ら課題を設定し解決する探究的な活動を通して「深い学び」をより実現していくことが今後の課題である。

## 『源氏物語』資料プリント(A)

### 「紫の上と光源氏の関係」

光源氏が十八歳の時、病の平癒に向けた祈禱のために訪れた北山で、十歳の美しい少女に目を奪われた。これが若紫で、後の紫の上である。若紫は、光源氏が思慕する藤壺女御の兄の娘に当たり、光源氏にとっては運命の女性となる人物であった。その後、若紫の面倒を見ていた祖母が亡くなり、父親の元へ引き取られることを耳にした光源氏が、父親より先に若紫を自分の元へ引き取った。光源氏によって貴族の姫君としての様々な教育を受け、突然のこと初めは戸惑った若紫も次第に光源氏に親しみ、二人は、兄と妹のような、父と娘のような、信頼関係を築いていった。

光源氏の正妻である葵の上が死去した後、成長した若紫は光源氏の妻となり、紫の上と呼ばれるようになった。紫の上は幼い頃に光源氏に引き取られ親子にも似た関係性が持続する延長上に婚姻関係があったわけで、当時の婚姻儀式である「三日夜通い」もなかった。そのため、二人の婚姻関係は世間的には正式な婚儀を経ていない、変則的な結ばれ方と見なされた。また、二人の婚姻関係は、女性側の後見が実質上ないまま成立した。当時の婚姻関係において、女性側の実家の政治的・経済的な支援は重要視されるものであった。紫の上は実父との縁が薄くその元で暮らしたことはなく、母方から伝領された邸も失われた状態で光源氏の庇護の下に成長し、婚姻に至った。このような状況が、紫の上の光源氏の妻としての立場を曖昧なものにしており、確固たる正妻というほどの立場ではなかったと言える。

しかしながら、長く光源氏と暮らし、その寵愛を受けた紫の上は、光源氏が他の女性と関係を持つても、最も正妻的な立場にある女性として認知されていた。紫の上自身も光源氏への信頼と長きにわたって築いてきた二人の絆を頼みとし、光源氏の妻としての自負があった。

☆要点をまとめましょう。

## 『源氏物語』資料プリント(B)

### 「女三の宮という人物」

女三の宮は、朱雀院の第三皇女である。病を抱えた朱雀院は出家を決心したが、すでに母親に先立たれたこの女三の宮が残されることを憂慮し、様々な案の末に光源氏に託すことになった。皇女という女三の宮の身分にふさわしい相手を見つけるのに苦労した上で、ついに院の異母弟にあたる光源氏の所へ女三の宮を降嫁させることとした。光源氏は最初は辞退したものの、兄・朱雀院のたつての願いであることや、光源氏自身の皇女への興味もあって結局は受けることとなった。光源氏は四十歳を迎え、対して女三の宮は裳着(「女子の成人の儀式」)を終えたばかりの十四歳という年齢での婚姻であった。

こうして女三の宮は光源氏の元へ迎えられ、光源氏と長く連れ添ってきた紫の上をはるかにしのぐ「正妻(「第一の妻」)として重んじられることとなった。これは、女三の宮が皇女という非常に高い身分であること、また、今回の婚姻が父親の朱雀院による全面的な支援の下に執り行われたこと、によるもので、紫の上との格差は圧倒的であった。紫の上は、これまでの光源氏の正妻的立場を奪われる形となり、その今後の身の振り方に、世間は好奇の眼差しを注いだ。

光源氏は、婚姻の儀式として三日続けて女三の宮の元に通ったが、女三の宮の幼さが、物足りなく、紫の上に比べて見劣りすると感じていた。女三の宮は、年齢が若くさらに内面的にも未成熟で、光源氏と長年にわたって信頼関係を築いてきた紫の上に対し、光源氏と深い愛情を交わすほどの存在にはなっていなかった。

☆要点をまとめましょう。

## 『源氏物語』資料プリント(C)

### 【平安時代の結婚】

平安時代は、一人の男性が複数の女性と関係を結んでもよいとされていたが、女性たちは完全に同列というわけではなかった。正妻は一人のみで、他は妾(「愛人、恋人」とみなされていた)。「源氏物語」が書かれた時は、正妻の堅固な立場が築かれつつある過渡期に当たり、正妻の立場の女性が一人のみという状況で全てが描かれているわけではない。それでも、正妻とされる妻は一人という認識は暗黙の常識として存在していたと言える。

光源氏は、最初の正妻である葵の上の亡き後、紫の上と結婚し、光源氏の正妻の立場の女性は紫の上とされた。紫の上との結婚後も光源氏が他の女性と関係を深めることは何度かあった。

○朧月夜 ……花見の宴で出会い、関係を持った女性。光源氏の政敵である右大臣の娘で、東宮(皇太子、次の天皇)との結婚が決まっていたが、光源氏との関係が続いた。その後、二人の関係が右大臣の知るところとなり、光源氏の失脚につながった。

○明石の君 ……光源氏が政治的に失脚し、都から明石へ移っていたときに明石で出会った女性。光源氏が都へ復帰する際に都へ連れて行くまでには至らなかったが、光源氏の子を身ごもり、後に出産した。生まれた子は将来のことを考えて光源氏の元で育てることとなり、子供のいない紫の上の養女となって都で養育された。

○朝顔の君 ……長年にわたって光源氏が好意を抱いていた女性で、手紙をやりとりして光源氏が求婚したが、朝顔の君から拒絶された。

○玉鬘 ……光源氏が若いときに亡くした恋人・夕顔と内大臣の間の娘で、光源氏は長らくその行方を案じていた。玉鬘が九州から上京した際に偶然に出会い、光源氏は自分の元に引き取った。美しく、亡き恋人の面影を残す玉鬘に光源氏は数々の贈り物や手紙を送ったが、最後は髭黒の大将と結婚した。

いずれの女性たちも、紫の上より身分が高く、光源氏との結婚が成立すると紫の上を差し置いて正妻の立場になる可能性が高かった。しかしながら、どの女性も光源氏と婚姻関係を結ぶには至らず、紫の上は長年にわたって光源氏の正妻としての地位に立ち続けた。

☆要点をまとめましょう。

『源氏物語』「紫の上の苦惱」

3年「組」「番 氏名」

問：「紫の上の苦惱」とは、どのようなものか？ 説明しなさい。

一人の女として 自分も未だ 素直な心を持ってしまふより  
不安をもち、 頭ではわかっているも それを 快く  
受け入れたところから 甘やかさぬ さらば 命持す。  
△今までの生活が 甘やかさぬ さらば 命持す。

『源氏物語』「紫の上の苦惱」

3年「組」「番 氏名」

問：「紫の上の苦惱」とは、どのようなものか？ これまでの活動を通して分かったこと  
も含めて、自分の言葉で説明しなさい。

此紫の上は自身の身分が色にことに加え、源氏が身分の  
高い女性と遊くことを厭にしていた。しかし今までの出来は  
最も寵愛を受け、正妻的立場であったこと満足  
ができた。

源氏が紫の上の元と三日夜通しをすること、しかし  
たいてい思ふ反面、それ以上に、正妻的立場を奪われるのでは  
ないかと、不安や、不安を繰り返すこと、思ふに、未帰仲加境を  
た非し、平然と保てられた。源氏に對しても甘やか  
さぬ、投げやりな態度をとりました。  
紫の上の結婚をうけ、身の周りの環境が変化する不安  
をどうにか、そういふ前持すを、いつか甘やかすことにも苦しんで  
いたにちがいない。

☆「紫の上の苦惱」を右のように表現したのはどの部分からか？ 根拠となる箇所を本文  
中から抜き出して答えなさい。

「心はれど、甘ほもあまはれなり。  
「自らの御心は、たゞにえんめ給ふまじがせむ、まこと、こころも  
何も、いづこにたまふまじか。」と言ひかたはれ  
いふより、あつちも、うしろまたくぞ、思ひせりぬる。

『源氏物語』「紫の上の苦惱」

3年「組」番 氏名

問：「紫の上の苦惱」とは、どのようなものか？ 説明しなさい。

源氏が好きだからこそ「妻」として彼を支えなければいけないが、

好きだからこそ、一人の「女性」として女三の宮の存在による嫉妬や

不安に悩まされている。

『源氏物語』「紫の上の苦惱」

3年「組」番 氏名

問：「紫の上の苦惱」とは、どのようなものか？ これまでの活動を通して分かったことも含めて、自分の言葉で説明しなさい。

紫の上は、実家からの支援がなく、正妻としての立場が曖昧だったことに加え、源氏が自分よりも身分が高い女性との関係が多く築いていたため、常に不安を感じていた。源氏との長年の信頼関係から正妻的地位を保って、大丈夫と思っていた矢先に自分よりもはるかに身分の高い女三の宮が突然源氏と結婚し、正妻の立場を奪われた形になってしまった。これから夫婦としての生活に大きな不安を抱いている。

☆「紫の上の苦惱」を右のように表現したのはどの部分からか？ 根拠となる箇所を本文中から抜き出して答えなさい。

源氏が紫の上が幼い頃に引き取って、その子と大人になり、「三日通い」を繰り返すまま世間的に見て正妻的地位が紫の上となってしまう。それだから、紫の上の立場が曖昧であり、支援してくれない人も周りに存在しないことがわかる。源氏の室の冠である朱雀院の頼みだとの理由で女三の宮との結婚を断り切れなかった源氏に對しての不満や夫婦の仲が思っていたよりももういっしょに気がきき和歌まで詠んでいることから、これからの夫婦生活に不安を抱いていることがわかる。

【学習活動の概要】

1 単元名 複数の人物の視点から、作品内で起こった出来事の真相を解明しよう

2 単元の目標

- ・複数の登場人物の立場から作品を見ようとする。 (関心・意欲・態度)
- ・3つの視点を踏まえ、作品の中で起きた事件の真相を推測する。 (読む能力)
- ・大鏡の記述形式や天皇の即位・退位に関する知識を身に付ける。 (知識・理解)

3 単元の評価規準

関心・意欲・態度	読む能力	知識・理解
複数の登場人物の立場から作品を見ようとしている。	複数の登場人物の視点を踏まえ、作品の中で起きた事件の真相を推測することができる。	大鏡の記述形式や天皇の即位・退位に関する知識を身に付けて作品を読むことができる。

4 単元の概要

グループ内で自分の担当する人物を決め、自分の担当する人物の行動や心情を把握し、それらをグループ内で共有することで「花山天皇の出家」の真相を推測して作品を深く読み味わう。

教材 『大鏡』 「花山院の出家」

教具 ワークシート

5 単元の指導計画

次	学習活動	深い学びに関する指導上の留意点
第1次	・本文を現代語訳し、逐語訳を確認する。【個人】	・グループ活動時に推測する活動の余地を残すため、語句の知識や主語などを補うのは最小限にとどめる。
第2次	・グループ内で自分が担当する人物を決め、ワークシートでその人物の発言を分析し、グループ内で共有する。【グループ】 ・栗田殿の「まかり出でて～」の台詞に対する、各登場人物の受け取り方をワークシートにまとめ、グループ内で共有する。【グループ】	・各自の分析について、指名して発言させて確認していくことで、分析を共有して全体に考えを広げていく。 ・初見の文章から登場人物の心情の分析をする必要があるため、生徒の状況を見ながら、必要に応じて全体に補足説明を行うようにする。
第3次	・グループ内で共有したこと、東三条殿に関する描写を踏まえて「花山天皇の出家」の真相について、各自が考察し、ワークシートにまとめる。【個人】	・他人の分析等を共有した上で、考えを深めるために「個」の活動に限定する。

## 【解説】

### 【指導事例と学習指導要領の関連】

本事例の指導事項は次のとおりである。

イ 古典を読んで、内容を構成や展開に即して的確にとらえること。 「古典B」内容(1)

この指導事例を指導するのにふさわしいと考えた言語活動は次のとおりである。

ウ 古典に表れた人間の生き方や考え方などについて、文章中の表現を根拠にして話し合うこと。  
「古典B」内容(2)

### 【深い学びの実現に向けた工夫】

#### ○気づく・発見することの喜び

『大鏡』「花山院の出家」は、様々な登場人物の本音と建前が交錯する、読解が非常に難しい場面である。「花山天皇の退位の異常性」「当時の人々にとっての出家の意味」「三種の神器が皇位継承においてもつ意味」「摂関政治と藤原家の関わり」等、様々な前提知識を有した上で初めてこの場面の意味が理解できるようになる。逆に言えば、本教材は読解していく中で様々なことに気づき、発見することができる教材である。「深い学び」実現



のためには生徒が古典作品に興味を持ち、読みたいと思わせる仕掛けが必要だと考えている。授業を行っていて、生徒が授業の中で喜びを感じるのには、何かに気づき・発見する瞬間であると感じている。「花山院の出家」はその意味で、生徒に多くの気づきや発見を体験させる教材だと考えており、授業も、生徒が気づきや発見を多くできるように工夫して構成した。

#### ○「グループ活動」と「個の活動」の使い分け

アクティブラーニングが様々な教育現場で実践されていく中で、「アクティブラーニング」＝「グループ・ペアによる話し合い」の構図だけが一人歩きしてしまっていると感じることがある。私自身、グループで話し合うことがそのまま生徒の主体的な学びに繋がると考えていた。しかし、改めて「深い学び」の観点を入れて考えてみると、国語の授業の中で最終的に学びを深めるためには、必ず「個人」が自分自身の力だけで文章と向き合う時間が必要になるという考えが生まれた。そのため、「グループ活動」と「個の活動」の長所をそれぞれ理解し、授業の中に効果的に組み込むことを意識して授業やワークシートを構成した。



「グループ活動」では自分が持っていない他人の考えに触れることができる。その考えを取り入れながら「個の活動」によって学びを深める。そのサイクルを繰り返していくことが、アクティブラーニングによる深い学びの実現に繋がると考えている。

#### ○通常の授業の中での導入のしやすさ

「深い学び」を実現するための授業を考える上で意識したことは、「いかに通常の授業の中で容易に導入できるものにするか」ということである。年間を通じて継続的に深い学び実現のための授業を実施するためには、大がかりな準備の必要が無く、授業の内容から逸脱しすぎないものである必要がある。そのため、授業の補助教材はワークシートのみにするよう心掛けた。ワークシートのみで生徒の学びを深いものにするために「発問の質」には注意を払った。発問は言葉一つが変わるだけで生徒の解答が大きく変わってくる。発問に答えてもらい生徒の解答を全体で共有し、それが気づきや発見になる流れができるように発問を工夫して配置した。また、本校はほとんどの生徒が受験で古典を使用するため、初見の文章をいかに読解できるかが重要になる。普段の授業から生徒に意識させていることから大きく逸脱しないよう、この単元でも文章を「初見」で読解することは必ず入れるように心掛けた。

「花山院の出家」ワークシート 組 番氏名

■自分の役割○で囲む。・花山天皇 ・粟田殿 ・語り手  
 一 第二段落までの、各人物の発言を分析する。

花山天皇	粟田殿	語り手
<p>■「願証にごそありけれ、いかがすべからむ。」</p> <p>Q「どうしたらよいか」とは、何について悩んでいるのか？<u>推測</u>                  出家するか、しがないかということについて。</p> <p>■「はし」</p> <p>Q「はし」の後、花山天皇は何をしようとしたのか？<u>本文</u>                  昔程から肌身離さず持っていた弘徽殿の御衣を御衣を取って行こうとした。</p>	<p>■「さりとして、止まらせたまふべきやう侍らす。」</p> <p>Q「さりとして」で花山天皇に主張していることは何か？<u>本文</u>                  皇位継承のしるしをばらばらに、出家を勧めたりけりやいこと。</p> <p>■「いかに、かくは思しめしならせおはしめぬぞ」</p> <p>Q粟田殿は、花山天皇にどのような考えをもつてほしいのか？<u>推測</u>                  皇位に継承をもちたすに、出家しようという考え。</p> <p>Q「いかに、かくは思しめしならせおはしめぬぞ」の理由をどのように考えているか？<u>推測</u>                  弘徽殿の御衣を御衣に脱して、皇位を継承しようとした。</p>	<p>■しか申させたまひけるとぞ。</p> <p>Q語り手が知っている、粟田殿の行動の目的は何か？<u>本文</u>                  宮中に降参すること。</p> <p>Q語り手は、「ぞら泣き」の理由をどのように考えているか？<u>推測</u>                  弘徽殿の御衣を御衣に脱して、皇位を継承しようとした。</p>

二 一の分析から、各人物の考えに当てはまるものを○で囲む。  
 【花山天皇】 自分の出家を… ・したい ・したくない ・送っている  
 【粟田殿】 天皇に出家を… ・してほしい ・してほしくない ・どちらでもない  
 【語り手】 粟田殿の行動に… ・好意的 ・批判的 ・中立的

三 「まかり出でて、大臣にも、姿はらぬ姿、いま一度見え、かくと案内申して、必ず参りはべらむ。」について、  
 ・花山天皇はどのように受けとったか？本文  
 自分をだまそうとしている。粟田殿にだまされたことを気づいた。  
 ・粟田殿はこの後、どのような行動をとると考えられるか？推測  
 粟田殿は、この後、どのような行動をとると考えられるか？推測  
 粟田殿は、この後、どのような行動をとると考えられるか？推測

粟田殿は、この後、どのような行動をとると考えられるか？推測  
 語り手は、花山天皇と粟田殿に対してそれぞれどのような思いを抱いているか？本文  
 花山天皇は、粟田殿に対してどのような思いを抱いているか？本文

四 以上の内容を踏まえ、「語り手」が考える「花山天皇の出家」の真相は何だったのか？以下の言葉を用いてまとめよ。  
 【用いる言葉】 ・花山天皇 ・粟田殿 ・春宮 ・兼家  
 兼家が、春宮に皇位を継承させようとしたために、自分の子じあ、粟田殿を、花山天皇を出家させた。

「花山院の出家」ワークシート 組 番氏名

■自分の役割○で囲む。・花山天皇 ・粟田殿 ・語り手  
 一 第二段落までの、各人物の発言を分析する。

花山天皇	粟田殿	語り手
<p>■「願証にごそありけれ、いかがすべからむ。」</p> <p>Q「どうしたらよいか」とは、何について悩んでいるのか？<u>推測</u>                  出家するかどうかについて。</p> <p>■「はし」</p> <p>Q「はし」の後、花山天皇は何をしようとしたのか？<u>本文</u>                  弘徽殿の御衣を御衣を取って行こうとした。</p>	<p>■「さりとして、止まらせたまふべきやう侍らす。」</p> <p>Q「さりとして」で花山天皇に主張していることは何か？<u>本文</u>                  皇位継承のしるしをばらばらに、出家を勧めたりけりやいこと。</p> <p>■「いかに、かくは思しめしならせおはしめぬぞ」</p> <p>Q粟田殿は、花山天皇にどのような考えをもつてほしいのか？<u>推測</u>                  皇位に継承をもちたすに、出家しようという考え。</p> <p>Q「いかに、かくは思しめしならせおはしめぬぞ」の理由をどのように考えているか？<u>推測</u>                  弘徽殿の御衣を御衣に脱して、皇位を継承しようとした。</p>	<p>■しか申させたまひけるとぞ。</p> <p>Q語り手が知っている、粟田殿の行動の目的は何か？<u>本文</u>                  宮中に降参すること。</p> <p>Q語り手は、「ぞら泣き」の理由をどのように考えているか？<u>推測</u>                  弘徽殿の御衣を御衣に脱して、皇位を継承しようとした。</p>

二 一の分析から、各人物の考えに当てはまるものを○で囲む。  
 【花山天皇】 自分の出家を… ・したい ・したくない ・送っている  
 【粟田殿】 天皇に出家を… ・してほしい ・してほしくない ・どちらでもない  
 【語り手】 粟田殿の行動に… ・好意的 ・批判的 ・中立的

三 「まかり出でて、大臣にも、姿はらぬ姿、いま一度見え、かくと案内申して、必ず参りはべらむ。」について、  
 ・花山天皇はどのように受けとったか？本文  
 粟田殿にだまされたことを気づいた。  
 ・粟田殿はこの後、どのような行動をとると考えられるか？推測  
 粟田殿は、この後、どのような行動をとると考えられるか？推測

語り手は、花山天皇と粟田殿に対してそれぞれどのような思いを抱いているか？本文  
 花山天皇は、粟田殿に対してどのような思いを抱いているか？本文

四 以上の内容を踏まえ、「語り手」が考える「花山天皇の出家」の真相は何だったのか？以下の言葉を用いてまとめよ。  
 【用いる言葉】 ・花山天皇 ・粟田殿 ・春宮 ・兼家  
 兼家が、自太子である春宮に皇位を継承させようとしたために、自分の子じあ、粟田殿を、花山天皇を出家させた。

「花山院の出家」ワークシート

組 番氏名

■自分の役割○で囲む ・花山天皇

●栗田殿 ・語り手

一 第一段落までの、各人物の発言を分析する。

花山天皇	栗田殿	語り手
<p>■「頭証にこそありけれ、いかかすべからむ。」</p> <p>Q「どうしたらよいか」とは、何について悩んでいるのか？<b>推測</b></p> <p>出家するさうか。</p>	<p>■「さりとして、止まらせたまふべきやう侍らず。」</p> <p>Q「さりとして」で花山天皇に主張していることは何か？<b>本文</b></p> <p>天皇を引退するのをやめ、ついでに、出家を勧めようか。</p>	<p>■しか申させたまひけるとぞ。</p> <p>Q語り手が知っている、栗田殿の行動の目的は何か？<b>本文</b></p> <p>栗田殿は勝手手に神聖・空剣を春宮の御方に渡して天皇を出家させようとした。</p>
<p>■「ばし」</p> <p>Q「ばし」の後、花山天皇は何をしようとしたのか？<b>本文</b></p> <p>弘徽殿の女御からの御紙を取り戻そうとした。</p>	<p>■「いかに、かくは思しめしならせおはしませぬぞ。」</p> <p>Q栗田殿は、花山天皇にどのような考えをもつてほしいのか？<b>推測</b></p> <p>天皇を引退するのをやめ、ついでに、出家を勧めようか。</p>	<p>■「そら泣きたまひけるは」</p> <p>Q語り手は、「そら泣き」の理由をどのように考えているのか？<b>推測</b></p> <p>この場で天皇は出家した。た。</p>

二 一の分析から、各人物の考えに当てはまるものを○で囲む。

【花山天皇】 自分が出家を…

【栗田殿】 天皇に出家を…

【語り手】 栗田殿の行動に…

【批判的】

【中立的】

【迷っている】

【どちらでもない】

三 「まかり出でて、大臣にも、姿はらぬ姿、いま一度見え、かくと案内申して、必ず参りはべらむ。」について、

栗田殿はどのよう行動をとると考えられるか？**推測**

栗田殿は「まかせん」として、父親に報告した。

語り手は、花山天皇と栗田殿に対してそれぞれどのような思いを抱いているか？**本文**

語り手は、花山天皇と栗田殿に対してそれぞれどのような思いを抱いているか？**本文**

花山天皇はどのよう行動をとると考えられるか？**推測**

花山天皇は「まかせん」として、父親に報告した。

四 以上の内容を踏まえ、「語り手」が考える「花山天皇の出家」の真相は何だったのか？以下の言葉を用いてまとめよ。

【用いる言葉】 ・花山天皇 ・栗田殿 ・春宮 ・兼家(栗田殿の父)

栗田殿は花山天皇を出家させ、春宮に神聖・空剣を渡すこと、自分にかまをわけようとして、兼家はそれを成功するように陰から手助けをしていた。

「花山院の出家」ワークシート

組 番氏名

■自分の役割○で囲む ・花山天皇

●栗田殿 ・語り手

一 第二段落までの、各人物の発言を分析する。

花山天皇	栗田殿	語り手
<p>■「頭証にこそありけれ、いかかすべからむ。」</p> <p>Q「どうしたらよいか」とは、何について悩んでいるのか？<b>推測</b></p> <p>出家するさうか。</p>	<p>■「さりとして、止まらせたまふべきやう侍らず。」</p> <p>Q「さりとして」で花山天皇に主張していることは何か？<b>本文</b></p> <p>天皇をやめてはいけぬ。神聖・空剣が次の天皇にわたるから。</p>	<p>■しか申させたまひけるとぞ。</p> <p>Q語り手が知っている、栗田殿の行動の目的は何か？<b>本文</b></p> <p>栗田殿は勝手手に神聖・空剣を春宮にわたした。</p>
<p>■「ばし」</p> <p>Q「ばし」の後、花山天皇は何をしようとしたのか？<b>本文</b></p> <p>弘徽殿の女御の手紙を取り戻した。</p>	<p>■「いかに、かくは思しめしならせおはしませぬぞ。」</p> <p>Q栗田殿は、花山天皇にどのような考えをもつてほしいのか？<b>推測</b></p> <p>出家したいと考えてほしい。早く出家してほしい。</p>	<p>■「そら泣きたまひけるは」</p> <p>Q語り手は、「そら泣き」の理由をどのように考えているのか？<b>推測</b></p> <p>この場で天皇は出家した。た。</p>

二 一の分析から、各人物の考えに当てはまるものを○で囲む。

【花山天皇】 自分が出家を…

【栗田殿】 天皇に出家を…

【語り手】 栗田殿の行動に…

【批判的】

【中立的】

【迷っている】

【どちらでもない】

三 「まかり出でて、大臣にも、姿はらぬ姿、いま一度見え、かくと案内申して、必ず参りはべらむ。」について、

栗田殿はどのよう行動をとると考えられるか？**推測**

栗田殿は「まかせん」として、父親に報告した。

語り手は、花山天皇と栗田殿に対してそれぞれどのような思いを抱いているか？**本文**

語り手は、花山天皇と栗田殿に対してそれぞれどのような思いを抱いているか？**本文**

花山天皇はどのよう行動をとると考えられるか？**推測**

花山天皇は「まかせん」として、父親に報告した。

四 以上の内容を踏まえ、「語り手」が考える「花山天皇の出家」の真相は何だったのか？以下の言葉を用いてまとめよ。

【用いる言葉】 ・花山天皇 ・栗田殿 ・春宮 ・兼家

栗田殿は、花山天皇に出家をせざるに勝手手に、春宮に神聖・空剣をわたした。そして、花山天皇と一緒に出家するという約束を破ろうとしたが、兼家が栗田殿が本心に出家するのを助けた。心算したので、寺には強い源氏の武者が集まっていた。

